碩心

社団法人　日本詩吟学院岳風会　認可
神奈川　碩心会　発行

58年5月号（130号）
発行者
根岸岳萃
編集
中村愛岳

58年5月現在会員数
逗子地区　148名
葉山地区　297名
大船地区　64名
（合計）（509名）

吟詠芸術向上と大衆化への道拓く

木村岳風（I）

長野県本部長　竹ノ内岳宗

〝朗吟との出会い〟

岳風会宗範木村岳風先生が吟詠を始めたのは、令姉まささんが熊本片倉製糸株式会社工場に勤務の折、令弟（木村先生）のドモリを治さんものと朗吟を習ってきて教えたのが直接の動機と伝えられている。

木村先生の十二、三ころのことと推測される。

もちろん、信州諏訪地方にも、旧諏訪高島藩時代から朗吟が伝えられていた。主として藩の若侍が、漢学勉強の余暇に口ずさんでいたもので、絶句を四つに分け、七言ならば七字七字に区切って吟ずる朴訥な吟法で、飾りのない姿で吟じられていた。

小学生も多勢ではないが、同級会、学芸会の余興によく吟じ、木村岳風先生は名手であった。また、受け持ちの先生もよく吟ぜられた。

そして昭和の時代に入っても、高令者の方が、しばしばこの吟を吟じた。

木村先生は、小学校時代からの名手であり、青年時代に入ってもその趣味は朗吟であった。そして二十才のころ、上諏訪町役場の学務係に奉職した折、友人有志と相計って錦心流の琵琶を絃習し、のち上京、苦学していたときに雨宮国風先生（横浜市）から教えを受けて、碓水という稚号をいただいた。

後年、富山県氷見市の市長を歴任された堀埜岳鳳先生とは相弟子で、堀埜先生はこのとき、早稲田大学の学生で、淡水という雅号をいただいた。

木村先生は、この琵琶歌の吟法から、漢詩の近代吟法を編み出され、今日の二句三息 ― 絶句を六つに区切って吟ずる方法を始められた。

琵琶歌の吟は、長く雅びていて覇気に乏しいが、岳風先生の編み出した吟は、烈しく強く、吟じ易く、世に多く行なわれていった。

そして昭和の初めころから、木村先生は、いままで諏訪味噌販売などいろいろ事業に取り組んで思うように成果を得られなかった道から脱却し、朗吟師範の仕事に専念することになった。（以下次号につゞく）

◇筆者竹ノ内岳宗先生は木村岳風先生の竹馬の友であり、この原稿は松井岳洋先生を通じて連載させていただきます。

私と詩吟

逗子A支部　渡辺秀風

婦人会の新年会に誘われ、或る会場に参りました。その時、朗々たる吟声に合せ美しく舞う姿にすっかり魅了され、知り合いの方に紹介していただき心よく受け入れて下さいましたのが、今の中村愛岳先生でございました。早速堀内教場にお世話になりましたのが私の吟のお勉強の始まりでございました。

先生方はじめ皆様に御親切にしていただきました事忘れもいたしません。それから間もなく鎌倉に住む様になり、山の上ですので葉山までは遠くなり、逗子A教場にお世話になる事になりました。

当時の支部長竹村梅岳さん（故人）が何かとお心を配って下さり、支部の方達ともとけこんで週一度のお稽古を楽しみに通って、はや十数年がたちました。

竹村さん亡きあと、支部長をお引き受けしましたが、未熟な私を皆様方がよく助けて下さり、先生のおっしゃる〝和〟という事が自然にとけこんでいる様な感じがいたします。

この道はどこまで長くつづくことか、週一度の出逢いがとても楽しく、健康に注意して、山坂道の登れなくなるまで頑張りたいと思っております。

◇

第八回　碩心会温習会

と　き・58年6月5日(日)9時30分より

ところ・逗子図書館ホール

◇

第六回　横須賀第二地区吟道大会

と　き・58年6月12日(日)9時30分より

ところ・鎌倉市中央公民館分館

◇

選抜者（神・静）地区予選会通過

右会に逗子A支部の松井正山さんが見事通過、来る七月十七日(日)読売ホールでの全国選抜者吟道大会に出吟されます。皆さんで応援いたしましょう。

碩心会吟行会

木曽路めぐり

大船A支部　岩崎恵岳

前夜の雨もからりと霽れて絶好の行楽日和となり、ういういしいガイドさんと共に、和気藹々の笑いを乗せ定刻の七時逗子を出発。朝早いためか渋滞もなく、右に左に桃や桜の花を眺めながら約一時間程過ぎた頃、根岸会長の指導で岳風先生辞世の短歌を二度程練習、そのあと千葉剱岳先生の「日本を愛す」の熱吟を皮切りに次々にマイクは回り、笑いあり、歓声ありの中に相模湖に到着、小休止の後中央自動車道に入り、大月トンネルを抜けると、左に春雪眩ゆい富士の姿が現れ、思わず声をあげる。しばらくすると前方に八ッ岳が見えた。その昔、丈競べをして富士山が負けたくやしさに石を投げつけると、山が八つに割れて八ッ岳と呼ぶ様になったそうな。バスは快適に進み、愈々十二時少し前地蔵寺裏に着く。山上の墓地をめざし、細い坂道を懸命に登る。最初の墓参の折の雨の寒さや、道の狭かった事など話し合いながらようやく墓地に着く。墓は立派に整備され、感激も又一汐…香華を手向け辞世の短歌、碩心会の詩、合祀された先生の愛詩金州城を、天にも届けと大合吟、松の吟声ひときわ高く、余韻を胸深くに、小鳥の囀りを聞きながら山を下り、地蔵寺の名園を拝見、左奥に岳風先生が符付けを考えながら打たれたという滝があり、身の引き締る思いがした。時間の都

合ですぐ記念館へと向い、管理人の竹ノ内先生より色々お話を伺い、松口月城先生をお迎えした時、高令の先生を駕籠に載せて岳風先生の墓前にお運びしたところ、涙を流して喜ばれた由、「長寿にあやかる様私も毎日坐っていますから、皆さんも是非坐って見て下さい」と云われ、次々に大きな座布団に坐り長寿を祈った。遺品を拝見し二時記念館をあとにした。

十五分程すると右手に諏訪湖が見え、しばらくして世界第二の恵那トンネルを抜け今日の宿恵那ホテルに到着。夕食後は宴会となり、歌あり、踊りありで賑やかに八時半終了、そのあと一部屋に集り、懐メロに五十年前の歌まで飛び出し大合唱、懇親の感一段と深まり、明日の旅の無事を祈り十時第一日目の幕は閉ざされた。

吟行俳句

木曽川の　流れたゆとう芽吹きかな　山口　紫風

雪溪の　日のまぶしさや木々芽吹く

初桜　富士も日昏れて旅終る　岩崎　恵岳

吟声の　こだま走らす芽木の風

茶畑の　縞うきうきと日脚伸ぶ

初燕　馬籠の里は水豊か

教場だより

〃支部の歴史と開設二十周年大会〃

堀内支部

昭和三十八年四月、支部第一号として、元町バス停そばの堀内消防団詰所の二階で、五名から出発した堀内支部は、年毎に会員が増え、四十一年十月には教場を現堀内会館に移しました。その後更に会員増加に伴い、A・B・C班は堀内会館、D班は中村教場、E班は白井教場、F班は矢島教場と六班に分れ、吟道に励んでおります。又堀内支部を本家として、滝の坂、上山口、風早という分家もできました。

主な行事としては、昭和四十二年より、葉山町文化祭行事の一環である、詩吟詩舞発表会に参加、森戸神社に於ける元旦奉納吟、堀内支部独自の初吟会、納吟会と今尚一年もかゝさず続行、盛会に行われております。初吟会は厳粛に、納吟会は楽しくの主旨にそい、納吟のあとは各班毎に各々アイデアをこらし打揃ってそれはそれは楽しい懇親の場となります。歴代の支部長をはじめ、支部全員が一丸となってこそ今日の堀内支部があるものと思います。

昭和四十八年四月、葉山福祉会館に於いて十周年大会が盛大に行われたのでしたがあれからもう十年……と思うと感無量です。

今回の二十周年大会は、支部大会にふさわしい、田園風景の中にある長柄会館に於いて行われ、先生方はじめ、各支部代表の皆様方の御協力により盛会にできました事をあらためて御礼申しあげます。

プログラムも可愛い子供さんの吟あり、森戸の浜を北から南へ綴った構成吟森戸抒情、華道、詩舞など彩りよく織りこまれ、日頃の成果を発表、そして地元長柄支部はじめ、協賛吟詠と楽しく和気藹々のうちに終ることができました。根岸会長の挨拶にもありましたように〃常に碩心会の中心的存在の堀内支部〃という言葉をしっかりと胸に、益々の決意を誓いたいと思います。

愛岳記

老後の生きがい…詩吟と

涼州詩にふれて

山ノ根支部　佐藤　秀泉

日頃親しく御交際をさせていただいている横瀬秀風様のお奨めにより、一昨年五月山ノ根支部に入会させていただいてから約二年…三井雲岳先生を師と仰ぎ、厳しい中にも温容な態度で、初心者の私にも理解できるよう間合のとり方、余韻のひき方等、

懇切丁寧に御教示賜り、本年三月初伝認許され雅号を賜りました。老境に到りて始めた学習だけに歓び胸に溢れ、誠に感無量の心境でございます。三井先生の高恩に対し衷心より厚く御礼を申し上ぐると共に、今後も健康に留意し、吟道の勉学に励む決意を新たにいたしました次第です。尚雅号秀泉の「秀」は復習の都度助言を賜っている横瀬秀風様の一字をいただいたものです。

入会最初の学習は日本篇「秋日友人に別る」であったと記憶しております。爾来我が国の詩の研修に励み、本年より中国篇に進むことになり、二月二日の教習で三井先生が御存知の美声で涼州詞を朗々と吟じられるのを拝聴している中に、自然と詩文の中に引きこまれ、征戦の途次涼州に於て、漢の将兵が葡萄酒を飲みながら、戦の労苦を医している光景が脳裏に浮び、漢詩の妙味に深く感動し、浅学をも顧みず、作者の経歴及び詩中の事柄を深く識りたいと、関連の書籍を参考に調べてみました。

涼州詞　王翰

葡萄の美酒夜光の杯
飲まんと欲すれば琵琶馬上に催す
酔うて沙場に臥す君笑うこと莫かれ
古来征戦幾人か回る

〃涼　州〃

陳舜臣氏著「長安から河西回廊」によると漢王朝第七代皇帝、武帝が黄河の西方にあたる「河西回廊」（シルクロード通路）に左記の直轄郡四州を設定したと記載してあり、現在の甘粛省の武威附近一帯を涼州と呼んでいたものと思われます。

（長安よりシルクロードの道順）

涼州（現在の武威）＝甘州（〃張掖）＝粛州＝（〃酒泉）＝沙州（〃敦煌）

〃王　翰〃

作者王翰は唐王朝第五代睿宗皇帝（684～690）の時代に出生し、第六代玄宗皇帝（712～756）の時代に唐王朝に仕え其の頃死去されたものと思われます。本部研究教養部幹事中根総風先生著の中国職官要略に王翰の職官は「司馬」と記載されておりますから、唐王朝の州（地方）行政府の次官として行政に治績があった方と思われます。

〃夜光の杯〃

博友社発行小柳文学博士著の漢和大辞典に「夜光」とは螢の異名で、暗夜発光する玉とあり、又前述の陳氏の著書にも「夜光杯」とは西域（広義ではペルシャ地方、狭義では新疆ウイグル自治区の天山南路地方）の貢物である白玉で作られ、月光にあてると透明になり、現在は甘粛省の祁連山で採掘される原石で作っているとあります。

（移籍・住所変更）

52 加藤槍風　（堀内A）より（逗子A）へ
逗子市久木八－八－三三
（電）〇四六八－七三－二一〇六

252 大屋正山　横須賀市日の出町一－一六
ハイネス横須賀中央701へ

（入会）

579 豊東信孝（沙）　逗子市沼間三－一－一－二
（堀内D）（電）〇四六八－七三－八八四四

580 石川栄子　葉山町一色一二六二－一四
（一色B）（電）〇四六八－七五－一四三六

581 松井マス　葉山町一色五二六－二二
（一色B）（電）〇四六七－七五－四六一二

582 綿貫菊子　葉山町一色五一二－一一
（一色B）（電）〇四六八－七五－七六〇八

583 小池田鶴子　逗子市逗子七－一〇－一五
（逗子A）（電）〇四六八－七三－四九四八

584 樋口宜嗣　逗子市逗子三－六－七
（逗子A）（電）〇四六八－七三－八三〇一

585 梶ケ谷サヨ子　横須賀市秋谷四四八七
（上　原）（電）〇四六八－五六－五六六六

586 中根典朗（沙）　葉山町堀内一九三
（堀内D）（電）〇四六八－七五－四一七〇

（退会）

229 矢板静山（桜山A）
280 前野苑泉（鉞詠）
309 牛尾孝泉（逗子A）
491 青木清次（横鶯）
556 新倉敏夫（横　鶯）